

会 議 録

1 会議名

令和8年度 第2回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

- ・金谷地区振興プラン（仮称）金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせ！！
について

3 開催日時

令和8年5月13日（水） 午後6時30分から午後7時35分まで

4 開催場所

金谷地区公民館 集会室1・2

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：村田会長、阿部副会長、長副会長

大西委員、小竹委員、小林委員、小山委員、白石委員、滝澤委員、
星野委員、益田委員、宮越委員（欠席2人）

・観光施設課：新井課長、水品主事

・事務局：南部まちづくりセンター 稲田所長、小池副所長、荒川係長

8 発言の内容

【小池副所長】

- ・浅野委員と吉野委員を除く12人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【村田会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：小林委員と小山委員に依頼

― 次第 2 自主的な審議 金谷地区振興プラン（仮称）金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせについて ―

【村田会長】

次に次第 2 自主的な審議 金谷地区振興プラン（仮称）金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせについてに入る。

本日は金谷山公園についての勉強会として、観光施設課長の説明のあと意見交換を行う。金谷山公園は、金谷区のシンボルである。地元にながら知らないことが多いと思うので、その点を丁寧に説明いただければありがたい。

観光施設課長の説明を求める。

【観光施設課：新井課長】

観光施設課はこの春に新しくできた部署である。昨年まで、観光振興課には観光イベントを担当する振興係と施設係があったが、その施設係を独立させた形で観光施設課となった。

様々な観光施設を適切に管理することと、施設の今後のあり方を検討することが業務である。今日は、金谷山公園にある施設の現状について説明し、委員皆さんからのご意見を今後の施策にいかしたいと考えている。

- ・ 資料について説明

【村田会長】

ただいまの説明に対して、質問意見のある者の挙手を求める。

【星野委員】

過去に金谷山公園の在り方の検討会を何回かやった。委員の中で参加した人がいる。その結果は何も出てきていないのだが、その後どうなったのか。

【観光施設課：新井課長】

令和 6 年に 2 回会議を行っており、その結果がまとまっておらず、申し訳なく思

っている。その際の会議録や皆さんからいただいた意見は確認している。引き続き、それらの意見を整理していく。言い訳になるが、昨年度は全く対応することができず反省している。会議の中で「リフトは必要である」という強い意見があったと聞いており、リフトを更新した場合や代替案の検討に時間を要してしまった。結論的には、リフトの更新は難しいと考えている。今後、金谷山公園の検討を進めるの中で、検討会の皆さんからいただいた意見は取り上げていく。

【村田会長】

星野委員、よろしいか。

【星野委員】

リフトは架け替えると3億円かかるとか、ボブスレーの修理も何千万円かかると思えば現状維持していくのか。

【観光施設課：新井課長】

利用者も収益も少ない状況であり、現時点では厳しいと思っている。ただ、今後、民間事業者の提案を受ける機会を設けるとして、リフト等を活用した提案があることも想定されるため、リフト等が維持される可能性はゼロではないと考えている。スキー場としての可能性も残していきたいと思っている。

【小林委員】

現状のリフトをこれまで通り修繕しながら、いつごろまで今のままでいけると考えているのか。

【観光施設課：新井課長】

リフトは設置して40年を超えているので、非常に怖いという印象はあるが、お金をかけ続ければ、まだまだ10年くらいは維持できると考えている。整備する事業者から「部品がない」、「もう無理だ」と言われるまでは、維持できるはずである。しかし、それでは単純に維持することだけが目的になってしまう。

【小林委員】

毎年その点検をして、例えば大掛かりな修繕で今年できないから来年予算を取る、という繰り返しよりは、専門家の意見を聞いて今後の更新計画を立て、どこまで維持できるかをある程度見ておくべきだと思う。急に「もうダメだ」というのは無責

任な気がするので、更新されるかどうかは別として、現状の施設でやりくりする上で、行政としてどの程度まで維持できるのかという方向性は持つべきである。

【観光施設課：新井課長】

リフトを整備している事業者から、長期的な修繕箇所の資料はもらってあるので、そのとおり修繕すれば、もう少しは延命できる。一方で申し上げたいのは、利用者が少ないのにリフトを維持していくということが本来の仕事ではなく、どれだけ利用されているかということが大事である。そうした観点から言うと、金谷区の皆さんは「スキー発祥の地」として愛着があるし、私も個人的に思い出深い場所であるが、その思いだけで維持管理していくことは難しい。なぜ金谷区の皆さんがリフトを必要とするのかという対外的な説明が必要となる。例えば、他の区には、利用者が非常に少ない温浴施設があり、早く見直すべきだと言う人もいれば、地元には廃止すべきではないと言う人もいる。このことをどう決着させるかを考えなくてはならない。利用状況を踏まえて、維持することをやめる時期は、いずれ示さなければならないと考えている。

【小林委員】

通常の温浴施設と金谷山公園のリフトを並べて考えるのはちょっと違うと思っている。金谷山はスキー発祥の地であり、上越市の誇りでもあると思うので、そういう視点も持っていただきたい。あと、施設管理・運營業務委託料だが、資料によると年間3,700万円で、月額で300万円くらいだと思う。この中で日々の草刈りや毎日の業務、週末の営業なども含めて月300万円くらいかかっているということか。

【観光施設課：新井課長】

そうである。スマイルリゾートという会社に委託している。

【小林委員】

今のところ行政としては、言い方が悪いが金谷山に関してノープランだ。ただ、ハードではなくソフトの工夫でという話があったが、正直我々もほぼ同意見だ。何か大きな箱を作るよりは利用促進の工夫をするべきである。例えばボブスレーは、今は週末だけの利用だが、市内外の学校の遠足を誘致して、その日だけ乗り放題に

するとか、稼働率を上げる工夫はできる。あと個人的な意見だが、ぜひやってほしいのは、春はボブスレー周辺に菜の花、秋はコスモスが咲くといったシチュエーションを作ることである。今あるインフラをいかに有効に使うかが重要だ。

スキー客をターゲットにしたリフトには限界があり、むしろ金谷山公園の将来は、子どものソリ遊びだと思う。スキー以外でもいろんなアイテムが出てきているので、そうしたものでもリフトを利用させるプランや、ソリで歩いて上がるだけでなく、きちんとしたソリ用の外周コースを作るなどの方策が考えられると思う。そういうソフト面について、我々も含めいろんな方の意見を聞いていただき、やれるところから一緒に取り組みたいと考えている。ぜひよろしくをお願いしたい。

【村田会長】

他にいかがか。

【大西委員】

こんなに維持費がかかっているのは知らなかった。資料をいただき感謝する。いろいろなプランを立てていると思うが、スケジュールはどういうふうに、いつまでに決めるというのはあるのか。

【観光施設課：新井課長】

できれば年内に方向性を決めたいと思っている。その方向性は、金谷山公園をどう使っていくかというもので、皆さんの意見を踏まえて決めていくイメージである。その使い方が定まったときに、市としては、安全安心に利用してもらおうということが大事な役割であるため、そのために必要なものを備えたい。例えば、看板や柵など、必要なしつらえがあれば、来年度の予算編成に間に合わせたい。

【大西委員】

ちょうど今、みんなで話し合っているところなので、秋ぐらいを目指して、できたら内容を具現化して相談をしていくという形でいいか。

【観光施設課：新井課長】

そうである。皆さんには「金谷山を三世代で楽しむ」というコンセプトがあると聞いている。それは、今回の資料で示した「多世代協働」と同じ趣旨だと思う。皆さんの活動も重要と考えており、皆さんの意見と私たちの意見を持ち寄って話し合

い、積み重ねていく作業ができれば良いと思う。

【村田会長】

他にいかがか。小竹委員、BMX場についての説明があったがどうか。

(小竹委員意見なし)

【観光施設課：新井課長】

BMX場については、また個別に関係者の方々と調整させてもらっている。BMXという業界のことは、私自身もう少し勉強したい。観光施設課としてBMX場を管理していることからすれば、市外からの利用者がもっと増えることが一番良い。BMX場で大会があって、市内に宿泊してもらえれば、観光施設の役割の一つを果たすことになる。BMX場は、観光施設としての側面と、市内の子どもたちの利用に向けた施設の両面がある。市民の方々が使うだけでなく、市外利用者による外貨獲得の可能性を意図して整備したはずである。実際に、県外からBMXの練習にいられている人もいます。現在のBMXの位置づけなどを知ることによって、今後の方針が出てくるのではないかと考えている。

【大西委員】

例えば民間からの提案があればという話があったが、それは待っているだけのものなのか、こちらから何かアクションを起こすのか。

【観光施設課：新井課長】

そのように考えている。今までの経緯や現状について説明し、「今後こういった活用ができるか、意向はないか」と伝えなければ、普通は民間事業者が公園を使用できとは思わないのではないかと。他の地域ですでに実績のある事業者の話を聞きに行けば、他の事業者の名前が出てくることもあると思う。また、広く公募して提案を受けるという方法もある。

【村田会長】

他、皆さんいかがか。

【星野委員】

遊歩道のほうは、今、整備はどういうふうになっているのか。

【観光施設課：新井課長】

毎年、雪がとけた後に事業者や樹木の専門家の同行のもと、倒木の状況などを確認して整備している。

【星野委員】

遊歩道はほかにもあって、狭いところもあったりするので、そういうところも従業員の方と見てもらいたい。

【観光施設課：新井課長】

一通り現場を確認し、予算の範囲内で優先順位をつけて対応せざるを得ない。

【星野委員】

予算については、そんなにお金を使わないでやることもできるはずだ。今まで作ったら作りっぱなしで、傷んでいたらしい。BMX場から上まで行ける道もあったが、それも全然整備していない。そういうこともやれば、動画配信で金谷山公園を歩いている動画を出している人もいるのでいいと思う。

【滝澤委員】

金谷山をどうやって活性化するかという案がなかなか出ないので言いづらいというか、マイナス面ばかり言ってしまう感じである。皆さんもご存じだと思うが、先日、地元の新聞に金谷山のリフトを下りたところで熊が出たという話があった。これを放置しておいて、遊歩道を整備して安全を確保できるのかというのがまず一つ懸念される。

私もちょっと計算してみたが、去年7,000万円の経費をかけて、収入はいくらだったかというと、リフトの料金を払った方が2,000人、210円なのでほぼ200円として40万円くらいの収入だ。ボブスレーは収入が210万円。BMXはレンタサイクルと言ってもほとんど収入がゼロで、およそ300万円。300万円の収入を得るのに7,000万円を使っている。普通のリゾート施設であれば民間がやっていたら破綻する。人口がどんどん減る中で、このどんどん膨らむ経費を維持していくのは難しい。話し合いの中でリフトが必須だという話もあったようだが、リフトが老朽化して使えなくなったら更新はまず無理だろうと思った。では何ができるのか非常に難しいのだが、ただ、多額の予算をここに投入しているので、そのお金を全部使うわけではないにせよ、それを使って、何か別のことをやっ

て活性化する方向を考えた方がいいのではないかと思った。

私もここで3人子育てをしたが、私の教え方も悪かったのかもしれないが、子どもたちは無料の土曜日があっても行かなかった。最初できた頃に3回乗っただけで飽きてしまったようだ。いくら無料でも乗らない。そのような状況でリフトとボブスレーを維持するのは、経済的な合理性がなく難しいのではないかと思った。

【観光施設課：新井課長】

「行政サービス」を考えたとき、福祉や教育の分野にどうしてもお金がかかるし、かけるべきと思う。そうすると、現在の状況を踏まえ、リフトなどを行政サービスにどう位置づけるかという本質的なところが非常に難しい。個人的には何とか残したいという思いはあるが、一方で、市役所の職員としては、様々な分野で受益者負担を求めることが必要となるなど、今後の観光施設のあり方を検討する業務は、難しい仕事だと感じている。

そのため、金谷山公園の経営に対するアイデアを民間事業者に求めたいと考えた。新しい見方や捉え方があるかもしれないので、そういうことを探っていきたい。担当課としてのアイデアが全然ないというわけではないが、経営面も踏まえて具体的なアイデアを出すのは非常に難しいことであると思う。

【小林委員】

雑談だと思って聞いて欲しいが、金谷山に道の駅はどうか。

【観光施設課：新井課長】

交通量の多い山麓線があり、全国に道の駅は注目されている。補助金がつく場合もあるので、道の駅の整備は面白いと思う。様々なアイデアを否定せず、検討していきたい。

【小林委員】

大掛かりなものでなくていい。まず、金谷地区公民館の南側の隣地を買って、そこに道の駅を作って貰いたい。長野方面から来た人の足を一度ここで止めることが非常に重要だと思う。

【観光施設課：新井課長】

先ほどの令和6年の検討会の記録に、金谷山公園の広場は車の危険性がないこと

が良いとの発言があった。そういったところも特徴として活かすなど、色んなアイデアを組み立てていきたい。

【小林委員】

ぜひ検討してほしい。

【宮越委員】

まず、金谷山公園の公の施設としての扱いについてだが、去年、資産活用課の公の施設の再配置計画の説明を受けた。あまり前進していないというか、どうしたらいいか、市役所が足踏みしている印象だった。まずこの金谷山公園としては、何とか維持しながら使っていこうとしている施設の扱いなのか、将来的に需要見合いで閉鎖もあり得るという施設なのか、なかなか言いにくいところはあると思うが、今、位置づけをどうしているのか。

【観光施設課：新井課長】

再配置計画上の位置づけについては、この検討結果を受けて判断するということになっている。その理由の基本的な考え方になっていることは、先ほどの説明にあったリフトなどに費用がかかっているということである。公園としては、基本的には閉鎖するという話はない。やはりリフトとボブスレーの費用が大きいので、それを見直さなければならず、もし廃止することになった場合、今後どういう使い方をするかという答えを市役所の中でも待っている状態である。

【宮越委員】

もう一つ伺いたいのは、市全体で言えば経常経費率が今94パーセントくらいだと聞いている。ということは枠は残り6パーセントしかなく、新しく整備するための予算もその6パーセントしかない。6パーセントの額は約60億円になるが、それは実は国や県の補助事業の市の一般負担分でほとんど使われてしまうため、市の意向や市長の意向で何かを作ろうという余地は全くないはずだ。

その中で、この金谷山公園の経常経費の扱いは、先ほど滝澤委員が言ったように、大赤字の典型的な施設の一つだということである。金谷山公園もそうであるし、安塚のキューピットバレーも、その他の温浴施設も含めて、危機的な状態のものばかりだ。それをどうすればいいかと言うと、そうした観光施設全体について、お金を

かけずに民間の提案を受け付けるとよい。そのコンペのための経費はかかるが、市は一切資金を出さない。極端に言えば、この金谷山公園にどんな使い方をしてもらっても構わないので、企業として収益の出る施設運営の方法を募集する。そして、これに限らず他の施設も同様に例えば試してみるということある。

我々金谷区地域協議会としては、金谷山は大事だから何とかしたいという地域の思いがある。それは他の区でも同じだと思う。そうしたときに、外の目線、企業の目線から見て、それが採算の取れる、ある程度利益を上げられるものにできるかどうかという答えを、外から貰うのが一つの手ではないか。企業の提案が全くない、応募がない、あつたとしても市の財政負担がこれくらいでないとできないという提案であれば、おおむね方向性は外の目線から見た答えが出るのではないか。そうしたときにそれを持って、もう一度市としてどうするか、地域にその方向性を示すというような流れになると思う。

その上でどう考えるかということだが、これまでそれがなかった。なぜそう言っているかという、10年、20年すると財政は非常に逼迫し、住民も減り、経済活動も落ちる。余計にできなくなることを考えると、もうそろそろ最後ではないかという気がする。

【観光施設課：新井課長】

私は民間の知恵や力を借りることに賛成である。ただ、それが本当に住民や市民にとって利益にならない場合もあるのではないかという懸念もある、行政サービスとして、すべて民間に任せるのはどうかと思う。企業の提案を受けるにあたってはバランスをしっかりとって、皆さんが良いと言えるようなものにしないといけない。

【宮越委員】

公園管理を住民に丸投げするわけにもいかないし、住民側にそれを担保する組織を作る余力はたぶんない。そうなると、最終的にどこがやるのかは暗黙のうちに行政に向かいがちだが、行政が難しいなら民間に委ねる方向になる。

【観光施設課：新井課長】

令和6年の金谷山公園の在り方検討会を担当した職員は、やはり参加者の話を聴いてスキー場を残す必要もあるかという迷いがあつたと思う。しかし、今は資料の

とおり、どうしても厳しいという前提で話を進めていくのだろうと感じている。

【宮越委員】

何より市民の利用が増えていないのが一番のネックだ。要するに、市民が施設に魅力を感じないから使わないのか、他に楽しみがあるからもう好きではないのか、単純に公園を散策するのが魅力的でないのか、ということだ。だとすれば、どんなにお金をかけて施設をよくしても、多少利用者は増えるかもしれないが限界がある。何しろどんないいものを作っても市民が使わないのなら、作る価値がないのではないかと気になる。

【村田会長】

貴重ないろいろな意見をいただいた。私たちの地域協議会で自主的に検討していく中で、険しい問題点も出てくるが、今日は勉強させていただき、非常に有意義な時間をいただいたことに改めてお礼を申し上げる。意見を集約するというより、意見を聞かせていただく場となり、この1時間を費やしていただいたことに感謝する。私どももこれを糧にして、次の自主的審議事項の検討につなげていきたいと思うので、皆さんも今日の話の内容を確認しながら、次回の会議につなげていただければありがたい。

— 次第3 その他 —

【村田会長】

次第3 その他に入る。

事務局に説明を求める。

【小池副所長】

- ・第3回協議会：令和8年6月10日（水）午後6時30分から 金谷地区公民館
- ・第4回協議会：令和8年7月8日（水）午後6時30分から 金谷地区公民館

【阿部副会長】

- ・閉会の挨拶

【村田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。